

# しいのみ園施設視察研修事業

社会福祉法人 心友会 しいのみ園

〒266-0003 千葉県千葉市緑区高田町 1953-1

## 助成事業の概要

実施目的：強度行動障害を有した利用者が、地域生活に移行するにあたり、必要な設備や課題等支援とは別の部分に着目し、新しい部分の知識理解、向上に繋げる。他施設への見学を行うことで利用者支援の方法を増やすこと、各個人の考え方を見直し、より良い利用者支援を職員全員で共有することで利用者個人の幸せにも繋げることができ、職員一人ひとりのスキルアップにも繋げることを目的とした。

時期：2025 年 10 月 7 日～9 日

内容：社会福祉法人 侑愛会

障がい者支援施設 星が丘寮、障がい者支援施設 ねお・はろう、障がい者支援施設 侑愛荘  
計 3 つの施設を見学した。

社会福祉法人 あすなる福祉会

生活介護・就労継続支援 B 型事業所 あすなる  
アクティビティセンター

生活介護事業所 あすなる地域交流センター

生活介護・就労継続支援 B 型事業所 あすなる  
日明センター

共同生活援助（介護サービス包括型）ケアホーム  
柳崎

就労継続支援 B 型事業所 あすなるパン 計 5  
つの施設を見学した。

## 事業の成果

アセスメントや一人ひとりの特性を理解することの重要性を改めて知ることができた。また一人の

利用者様に対しての情報量が多いことにも驚いた。利用者理解がきちんとされていないと利用者自身のストレスや意味のない支援に繋がる可能性もあり、結果職員主体の支援になってしまう恐れが高くなる。

強度行動障害を有する利用者様に対して、当法人が参加している千葉県発達障害者支援センターの視覚的支援 TEACCH プログラムやアセスメントから強みを取り入れたスケジュール作成を実施し、利用者様の強みを活かした支援を目指している。問題行動を無くすのではなく、利用者様の強みへの興味を増やし、ストレスが少ない日々を送れるようにする。利用者様 1 人ひとりに合わせた支援を検討し、実施していくことが大切であることを再認識できる場であった。65 歳以上の利用者様が多数いたが、介護サービスへの移行はなく、看取りまで障害福祉サービスで行っていた。これは管轄する市区長村の協力がある事、同法人に診療所があり、すぐに医療サポートが受けられる体制になっている事で実施できる事だと感じた。

職員の人材確保も難しく、限られた職員数での支援が現状であった。だが、法人内での協力体制や工夫された営業日、共同生活援助に関しては職員が住み込みで働けるように、利用者寮の隣にもう一棟建て、職員のみが暮らす事ができる環境の準備、職員目線での配慮されている部分もあった。また、障害の程度に差はあるが利用者様が自ら主体となり、生活が送れるように職員が行うことは最低限の業務しかなく、余暇の部分も毎週 1 度は外出する日も設けていて、ルールに縛られない

生活が送れる状況が多くあることも知れた。介護報酬と同等額の就労の売上を出している事、利用者様が働く事に対し積極的だったことも強く印象的だった。

今回他施設の支援状況や作業環境、生活環境をみることができ、違った視点からの利用者支援や考えを知れた。

## ■ 成果の広報、公表

今回、施設見学で感じたことや発見したことは当法人の HP へ研修報告として掲載する。

また書面でも記録を残し、今後も他施設研修を重ねるごとに、施設見学としての専用ファイルの作成を行い、いつでも誰でも閲覧が行える環境の準備もしていきたいと考える。そして当法人でもいずれは外部（他県事業所）からの施設見学も受け入れ、今まで見学してきた他施設からのプラス部分やポジティブな部分を導入し、当事業所等の施設説明時にも加えていき、外部と繋がりを増やし、地域や社会との関わりを今以上に持てるようにしていく。

各事業所では月 1 回の事業所会議の場での共有や研修報告会として他職員へ見学先施設についての利用者支援の現状を伝え、当事業所との違いを考えたり、今一度利用者支援とは何かを自分自身で考える時間を設けたり、今後の各職員の利用者支援に対しての意識向上へ繋げていけるような場を準備していく。

## ■ 今後の展開

アセスメントを強化する事で利用者様一人ひとりに対しての強みや苦手な分野を理解し、特性に応じた支援を実施する。利用者支援について初心に戻り、利用者様を理解し、支援することを再認識

し、支援の向上を目指していく。また集団生活のルールは必要になるため、利用者様個人の意思の尊重や意思決定は重要視する必要がある。利用者様の自由な時間、余暇といった部分を改めて考え、本人にとって一番必要な事、重要な事なのかを考え、支援できる環境作りを目指す。

利用者様の地域移行を考え、スモールステップで環境整備や強度行動障害を有した利用者様がより良い生活を行えるよう地域交流の場を増やしていく。また、地域と一体化し生活が送れるよう地域行事への積極的な参加も踏まえていく。

情報共有といった部分にも力を入れ、障害者支援の場で働く人との関わりを増やし、各施設の取り組みや地域の現状を知る為、今後も他施設を見学する機会を取り入れる。